

東海テレビ この1年の取り組み

2023



東海テレビ放送

ごあいさつ

東海テレビでは、2011年に「ぴーかんテレビ不適切テロップ問題」を起こした8月4日を「放送倫理を考える日」としています。12年目となる本年もこの日に合わせ、東海テレビが実施した各種取り組みをご報告する「東海テレビこの1年の取り組み2023」を発行させて頂きました。

この1年を振り返ると、猛威を振るった新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着きを見せ、徐々にコロナ前の日常が戻ってきています。弊社でも、ゴルフトーナメント「東海クラシック」を有観客で実施したほか、「ふるさとイチバン イッチー祭」、「愛知駅伝」などを通じ、ご参加頂いた方々の笑顔や歓声に触れ、コロナ前の活気を取り戻しつつあることを日々実感しています。

実施中止などを余儀なくされてきた社内行事も、社会の動きを見ながら、集合・対面で行うことを模索する年となりました。昨年8月4日には、コロナ禍で控えていた「放送倫理を考える日」の全社集会を3年ぶりにスタジオで開催しました。新型コロナウイルス感染防止のため、スタジオの参加人数を制限しましたが、館内共聴や配信も利用し、より多くの関係者に参加してもらいました。何よりリアルでも開催できたことで、東海テレビで働く誰もが放送倫理について改めて見つめ直す良い機会になりました。

番組では、この4月に生情報番組「スイッチ！」が放送開始から10年の節目を迎えました。「ぴーかんテレビ」の後継として、「番組で失った信頼は番組で取り戻す」という強い決意で立ち上げたこの番組を続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様のおかげと改めて感謝申し上げます。例年にならい昨年10月には、問題発生当時、多大なご迷惑をおかけした岩手県庁やJA岩手県中央会、JA全農いわてに伺い、1年の活動を報告致しました。再発防止の誓いを新たにす意味でも、この取り組みは続けていければと考えています。

テレビをめぐる環境はいよいよ厳しさを増しています。視聴形態の変化に合わせ、放送だけでなく配信にも力を入れています。在名局で立ち上げた共同配信プラットフォーム「Locipo」は、4年目を迎えた今年、リニューアルを経て次のステージに入りました。各局の人気番組はもちろんのこと、オリジナルのコンテンツ動画やニュース、地域グルメ、旅行情報も配信しています。東海テレビは、11月に開催された「春の高校バレー 愛知県大会」の1回戦から準決勝まで全60試合をアーカイブ配信。そのほか、3月に行われた名古屋ウィメンズマラソンでは、リアルタイム配信をお楽しみ頂きました。

1958年12月に開局した東海テレビは、おかげをもちまして今年65周年を迎えます。周年に合わせ掲げたキャッチフレーズは「スモールアクション、進行中」。私たち一人ひとりが身近で小さなところにも目を配り、SDGsやCSRを意識した活動を通じ、今まで以上に地域に貢献していく所存です。

皆様におかれましては、引き続きの応援のほど、何卒宜しく
お願い致します。

東海テレビ放送株式会社
代表取締役社長

小島 浩資



基本理念

1. 放送の持つ公共性、公益性を強く自覚し、社会的使命感と高い倫理観を持って職務を遂行する。
1. ジャーナリズムを堅持することで表現の自由を守り、正確・公正で迅速な報道を通じて視聴者の知る権利にこたえる。
1. 災害時のライフラインとしての使命を果たし、地域の“命と生活を守る”情報発信に全力を挙げる。
1. 「ふるさとのテレビ」として地域密着を最優先し、良質な番組制作やイベント・催事を通じて、市民生活に役立つ情報と健全な娯楽を提供する。
1. 放送局としての自主・自立を守るため経営の安定化を図る。
1. SDGs（持続可能な開発目標）宣言をふまえ、これを企業活動の指針のひとつとする。

〈ビジョン〉

地域に貢献し 最も信頼されるテレビ局

目次	ごあいさつ	P 1
	基本理念・ビジョン／目次	P 2
	1. おかげさまで開局65周年	P 3
	2. CSRとSDGsに関する取り組み	P 5
	第三者意見Ⅰ	P 7
	3. 放送倫理意識向上に関する取り組み	P 8
	4. 岩手県をはじめとした被災地支援	P 10
	5. 放送や配信・イベントなどを通じた地域貢献	P 11
	6. 終息に向かうコロナ禍～3年ぶりのイベント開催～	P 14
	7. 視聴者に対するコミットメント	P 16
	第三者意見Ⅱ	P 17
	この1年の取り組み	P 19
	おわりに	P 20

東海テレビは、1958年12月に開局し、今年65周年を迎えます。昭和、平成、令和とこの地域の今を伝え続け、視聴者との信頼と絆を育ててまいりました。開局以来、一番大切にしているのは、地域に貢献していくことです。「ふるさとイチバン! 東海テレビ」をキャッチフレーズに、これからもしっかりこの地域に寄り添い、一緒に歩んでまいります。

主な周年記念番組

「ネバー・ギブアップ! 竹島水族館ものがたり」

(ローカルドラマ/1月3日(火)放送)

愛知県蒲郡市の竹島水族館が、若き館長を中心に斬新かつユニークなアイデアで人気スポットに変貌していく様子をドラマとドキュメンタリーで描きました。

「LIAR VOICE〜ホンモノを見極めろ〜」

(バラエティ/1月4日(水)放送)

4体のアバター(仮想空間上のキャラクター)が往年のヒット曲を熱唱。偽の歌声(ライアーボイス)に惑わされず、本物(本人)の歌声(リアルボイス)を見極めるエンターテインメントショー。

「半世紀ロック」(ドキュメンタリー/3月25日(土)放送)

1973年に名古屋で結成され、日本最古のロックバンドといわれる「センチメンタル・シティ・ロマンス」。その半世紀の活動の軌跡を追いかけたドキュメンタリー。

今後も、「土ドラ 東海テレビ×WOWOW 共同製作連続ドラマ ギフテッド Season1」(8月12日(土)スタート)、学校で習うけれど「これ、いつ使うの?」と子供たちが疑問を抱く知識が、実際にどのように活用されているかを紐解く知的バラエティ「カズレーターのピブンセキブンいつ使うん?」(8月13日(日)放送)、様々なジャンルのマジシャンが集結し、真の日本一を決定する「THE MAGIC オールジャンル日本一決定戦(仮)」(今秋放送予定)など、周年記念番組を今後も随時編成してまいります。



ネバー・ギブアップ! 竹島水族館ものがたり



半世紀ロック

主な周年記念事業

「スーパークラシックコンサート」 特別企画〈イチッチーみらいシート〉

(2023年5月~12月 於/愛知県芸術劇場コンサートホール)

1997年にスタートした「スーパークラシックコンサート」では、年間を通じて国内外で活躍する世界一流の演奏家によるステージをお届けしています。今年の全5公演を対象に東海地区の子どもたち各公演10名、計50名を無料招待する「イチッチーみらいシート」を新設。子どもたちに豊かな芸術体験の場をプレゼントします。

「グラン・ドリーム・バレエ・フェス2023」

(2023年10月8日(日)、9日(月祝) 於/愛知県芸術劇場 大ホール)

東海地区のバレエ界がバレエ団の枠を越えて総集結する祭典。上野水香(東京バレエ団 プリンシパル)、倉永美沙(サンフランシスコ・バレエ団 プリンシパル)ら、世界で活躍するトップダンサーをゲストに迎え開催します。また、オーディションで選ばれた東海地区の中小高生を中心としたバレエダンサーのべ250人がトッププリマと共演できる夢の舞台を提供し、この地方の若い才能を育成すると共に舞踊芸術の活性化に寄与します。



昨年の公演から

開局65周年となる今年、テーマとして「スモールアクション、進行中」が新たに加わりました。東海テレビの小さな行動の積み重ねから何かが生まれ、地域に広がり、大きな輪となってほしい。積極的に、地域のみなさんに提案し、行動していきたいという思いが込められています。また、この多様性の時代に対応し、未来に向けて、SDGs・CSR活動にも積極的に取り組んでいくという決意も表しています。



スイッチ！ 10周年と次の10年

生活情報部 横井 良安

2013年4月に始まった「スイッチ！」は、10周年を迎えました。そこでゴールデンウィークにあわせて「10周年大感謝ウィーク」と銘打ち、視聴者の皆様から募集した“願いごと”を叶える企画を5日間連続で放送するとともに、この10年間お世話になった皆様に様々な形で恩返しする特番「スイッチ！10周年ファミリーみんなで恩返し大作戦」を5月4日（木）に放送しました。

“願いごと”を叶える企画では、多数ご応募いただいた中から「つるの剛士さんに子供たちと一緒に外遊びをしてほしい」「キャイ〜んの天野ひろゆきさんに手料理を教えてほしい」「高井一アナウンサーと一緒に街道めぐりをしたい」など5企画を採用し、制作・放送させていただきました。一方特番では、アンジャッシュ児嶋一哉さんと須田亜香里さんが南知多ビーチランドで掃除やエサの準備など飼育員の皆様のお手伝いをしたり、チャンカワイさんが三重・答志島をPRするべくオリジナルの観光マップを作成したり、松平健さんがふるさと豊橋をめぐって地元名物などを買い集め、視聴者プレゼントを作ったり…などとさまざまな形で番組から“恩返し”をさせていただきました。

こうした「大感謝ウィーク」を通じて痛切に感じたのは、「スイッチ！」がいかに東海地方の皆様に愛されているか、ということでした。「大感謝ウィーク」をもって10周年の節目の年はひと区切りですが、スタッフ一同、視聴者や取材先の皆様への感謝の思いを胸に、次の10年に向けて皆様の毎日の暮らしを少しでもアップデートできるような番組作りを一日一日積み重ねていきたいという思いを新たにしました。



「スイッチ！10周年 ファミリーみんなで恩返し大作戦」

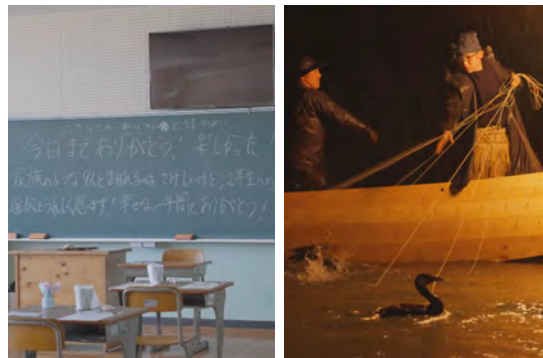
ふるさとの姿は変わったのか？ 「令和ふるさと紀行」

制作部 海野 仁志

1963年から「ふるさと」の姿を追い続けてきた番組、「ふるさと紀行」。2007年、2279回の放送で幕を閉じるまで「ふるさととは何か？」を視聴者に問い続けてきました。それから16年、令和を生きる私達にとっての「ふるさと」の意味とは？開局65周年番組として、今年7月に放送された「令和ふるさと紀行」はそんな思いで番組制作に取り組みました。

ひと昔前、「ふるさと」のイメージと言えば牧歌的な農村風景だった気がします。しかし、街が都市化、あるいは過疎化することによって、かつてのイメージは様々な姿に変わりました。番組では愛知・三河湾に浮かぶ日間賀島で人口減少のため閉校になる中学校や、頑なに伝統を守り続けてきた犬山祭、そして長良川鵜飼を取材しました。日間賀島で廃校になる中学校を卒業し本島に移り住む中学生。いつか日間賀島に戻って漁師になることを誓います。また、これまで女性が参加することを拒んでいた犬山祭。しかし、時代の流れを受け女性が参加することを受け入れました。

それぞれが「ふるさとの守るべきモノと変わるべきモノ」の判断を迫られます。しかし、その中で変わらないモノがありました。それは、そこに住む人たちの心の中にある「ふるさとへの思い」でした。



(上) 犬山祭 (左下) 閉校となった日間賀中学校 (右下) 伝統の長良川鵜飼

東海テレビでは、これまで行ってきたCSR、SDGsに関する取り組みをさらに深化させるべく、2022年7月「CSR推進部」を新設。発足元年となるこの1年は、積極的にさまざまな活動を展開してきました。これからも、より地域と地域の皆様に貢献できるよう努めてまいります。

「地域に貢献し、最も信頼されるテレビ局」の一翼として…

CSR推進部 勅使河原 由佳子

昨年7月に社長室CSR推進部が新設され、この1年は特に、東海テレビのビジョンに掲げられた「地域に貢献し、最も信頼されるテレビ局」の一翼となるべく、視聴者や地域の皆様とのタッチポイントを増やす活動に尽力してきました。

様々な活動の中で印象に残っているのは、子育て支援施設や図書館などで東海テレビアナウンサーらが絵本の朗読などを実施する“イチー文庫”の活動です。この1年で計350人程の地域のお母さんや子どもたちの笑顔に触れることができました。

その他、小学校や中学校でメディアリテラシーなどをテーマに「出張授業」を実施。放送局から発信される情報の信頼度について、また、テレビの魅力を若い世代に改めて知ってもらうなど、ファン拡大に向けた活動を行いました。

イベント終了後には、「明日からもっと東海テレビ見ますね」「イチーのファンになりました」などお声がけいただくことも多くあります。地道な活動ではありますが、東海テレビに親しみを持っていただくこと、より信頼されるメディアとして認知していただくきっかけづくりの大切さを日々実感しています。今後もハートウォーミングな“スモールアクション”を深化させていきたいと思います。



イチー文庫の活動に参加する筆者（左）と浦口史帆アナウンサー

サステナビリティに直結！「社内見学」

CSR推進部 谷口 雄二

テレビの制作現場を直接見聞きして学習する「社内見学会」は7年前、2016年6月、「スイッチ！」のスタジオ見学から始まりました。放送エリアの小中高生を対象に、2019年度は、25校約200人の児童・生徒たちが社内見学に参加しましたが、コロナ禍で休止。昨年7月のCSR推進部新設を機に、感染対策を実施した上で、2022年9月に見学を再開。中には、名古屋市の「キャリア教育」に沿った体験型プログラムとして、中学生が番組制作の現場でFD（フロア・ディレクター）の実務を一部担う機会もありました。また、再開に当たり、東海テレビとしてのSDGsへの取り組みにも触れてもらうべく、スタジオセットの生花をリユースしたドライフラワーを使った工作体験を盛り込むなど、ただ見るだけではない、体験型となる取り組みも行うようにしています。

2022年度のスタジオ見学の学校数は7校程度とコロナ禍前には及びませんでした。参加者からは「番組制作現場の仕事を体感して、テレビに興味を持った。」「テレビ局のSDGsへの取り組みがよくわかった。」などの感想が寄せられました。今後もSDGsの要素を取り入れ、工夫を凝らした「サステナビリティに直結する見学会」を継続していきたいと考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



（左）スタジオ見学（右）生花リサイクル「サークルフラワー」の様子

テーマはSDGs 2022年度第2回放送人研修会

コンプライアンス推進部 長坂 典洋

3月22日に実施した「放送人研修会」の開催テーマは『私たち東海テレビが実践するSDGs まずは自分たちの身近なところから!』。社としてのSDGsへの取り組みの情報共有、SDGsに関する理解度の底上げが主な目的でした。講師はオンブズ東海委員でもあり、一般社団法人中部SDGs推進センター理事の東珠実椋山女学園大教授。そのほか、実際にSDGsに取り組んでいる従業員5名も登壇し、パネルディスカッションを展開。会場となった本社Bスタジオのほか、職場のテレビ、オンライン、事後配信などを通じて約300名が参加・視聴しました。

各部のCSR活動の報告では、番組やイベントを通じた活動の他にも、ペーパーレスや節電、スタジオセットのリメイクなど、多岐にわたる業務上の様々な取り組みが披露されました。

SDGsについて、会を通じて東教授からお話いただいたのは「無理せずできることから取り組む」こと。参加者の事後アンケートでも、「身近にできることがあることを知った」「小さいことからでも取り組む大切さを実感した」など、これからの行動変容を感じさせる、前向きな感想が多く寄せられました。個人の取り組みが小さなアクションであっても、大勢が実践することで大きなうねりとなっていく…今回の研修会がそのきっかけとなれば幸いです。



放送人研修会の様子

この1年の主なCSR・SDGsに関する取り組み (2022年7月～2023年6月)

▶ペットボトルキャップチャレンジ

ペットボトルのキャップを集め、ユニセフを通じて世界中の子供達にワクチンを届けるプロジェクト。2021年1月から東海テレビ本社に回収箱を設置。ポリオワクチン273名分相当のキャップ約23.5万個を回収し寄付。(2023年6月現在)

▶『イッチー文庫』絵本の読み伝え活動

東海地区の児童養護施設、保育園や図書館などで、絵本を読み伝える活動を実施。地域で活動する音楽家とともにオリジナルの紙芝居「イッチー!きみのいいところ」を披露するなど、地域の子どもたちとの交流を行った。

▶地域の清掃活動 (2022年7月～)

東海テレビ従業員と近隣の児童・保護者・教員らで東海テレビ本社屋周辺の清掃を不定期で実施。身近なスモールアクションの重要性に改めて気づく機会となった。

▶東海テレビ国際基金「多文化交流プログラム」 (2022年7月～)

NEWS ONE「ミライノニュース」を多言語に翻訳し、学生が留学生らと共に身近なSDGsの話題について学びながら多彩なディスカッションやワークショップを展開。このほか、東海地区にゆかりのある日本古典芸能の文化体験も実施。期間中3回開催し、22校、9カ国の国籍の学生計100名が参加し、高校生の多文化交流に寄与。

▶『SDGs実践中プロジェクト』(2022年8月～)

「みんなで社会を前進させるために。今必要なアクションを名古屋から。」をスローガンに在名民放5局が合同で実践するプロジェクト。月1回、各局が自社の番組で地域のSDGsの取り組みを紹介しているほか、様々なイベントでのブース展開などを通して活動を紹介。

▶地域コラボCSR 防災イベント

(2022年9月～2023年3月)

トヨタモビリティ中京、千種区社会福祉協議会、災害ボランティアちくさネットワークと連携し、地域の防災力を高めることを目的に、親子や家族で楽しく学べるイベントを実施。座学だけでなく見て触って体験しながら学べる「家族でまなぼうさい」に協力。

▶社内見学・職場体験・出張授業

(2022年9月～再開)

「スイッチ!」のスタジオ・サブや、美術倉庫の見学を通じてSDGsの取り組みを紹介。報道スタジオの見学やドキュメンタリー制作スタッフとの交流なども行った。そのほか、学生の職場体験や、メディアリテラシーの出張授業なども展開し、地域学生へ向けた活動を実施。

「コンプライアンスとSDGs ー持続可能な未来をつくるー」

オンブズ東海委員 東 珠実 (椋山女学園大学現代マネジメント学部教授)

今年も、8月4日を迎えた。ぴーかんテレビ不適切テロップ事件から、すでに12年が経過している。当時のことを知らない社員が多くなるなか、毎年、この日を「放送倫理を考える日」と位置づけ、全社を挙げて放送倫理について改めて考え、コンプライアンスの意識を高める機会をもつことは、きわめて意味のあることである。

コンプライアンスとは、単にルールを守るだけでなく、高く揺るぎのない倫理観をもつことを含意している。最近では、倫理観にかかわる持続可能な未来のための世界共通の目標、SDGsに注目が集まっている。東海テレビでは、昨年7月に設置されたCSR推進部が、SDGsに関する取り組みの中心となり、他部署と関わりながら、精力的に活動を推進している。今年3月には、コンプライアンス推進部とCSR推進部がタッグを組み、SDGsをテーマに放送人研修会が企画・運営された。この研修会は、各部署の担当者が登壇しパネルディスカッションを展開するという、これまでにない画期的な企画となった。

そのコーディネータを務めさせていただいた経緯から、東海テレビのSDGsの取り組みについて感じたところを、少し述べたい。それは、「協働・連携による課題遂行」と「問題・課題の自分ごと化」に特徴づけられる。

CSR推進部や総務部が中心となり、他部署と連携しながらSDGsに関するイベントや企画、省エネ・省資源の取り組みが積極的に実施され、営業戦略部では、在名他局とともに5局合同プロジェクト『SDGs実践中』を展開するなど、さまざまな人や組織のつながりが効果的に機能していた。一方で、例えば、映像制作部では、軍手や紐を洗って何度も利用したり、副調整室の設備更新で大幅な節電を実現したり、美術部では、使われなくなったセットや台本を再利用し、新たな番組セットとしてリメイクするなど、各部署においてSDGsを「自分ごと」として捉え、独自のアイデアに基づく身近で多様な取り組みが実践されていた。研修会の最後には、SDGsになぞらえて、「S=少しずつ、D=できることから、Gs=がんばりましょう」というキャッチフレーズが披露され、会場は半ば決起集会のような雰囲気につつまれた。

SDGsの取り組みを通して社員一人ひとりに培われるマインドは、東海テレビが持続可能な企業として発展するために不可欠なコンプライアンスの意識を高め、社会的責任に対する自覚を導く。小島浩資社長のリーダーシップの下で、地域に信頼され、未来に選ばれる企業として、東海テレビがますますエンパワーすることを期待する。



東 珠実 (あずまたまみ) 氏

椋山女学園大学現代マネジメント学部教授。
椋山女学園大学大学院現代マネジメント研究科長。
博士(商学)。日本消費者教育学会顧問。
消費者庁消費者教育推進会議会長。
一般社団法人中部SDGs推進センター理事など。
専門は、消費者教育、生活経営学。

ピーかん問題以来、東海テレビでは放送倫理を考える取り組みを全社的・継続的に行っています。放送倫理にもとることが起きていないかチェックするとともに、昨今話題になっているテーマで研修会を開くなどの取り組みを通じて意識向上に努めてまいりました。

3年ぶりに開催 「放送倫理を考える全社集会」

コンプライアンス推進部 石原 慎太郎

2011年8月4日に発生した『ピーかんテレビ不適切テロップ問題』の翌年から毎年実施してきた「放送倫理を考える全社集会」。新型コロナウイルスの影響で2020年、21年は集会の中止を余儀なくされましたが、昨年、3年ぶりに開催することができました。感染症対策として、スタジオでの参加者を100名程度に制限し、集会の様子を各職場のテレビやオンライン、事後配信などでも視聴できるようにし、結果、参加者は前回（2019年）を大きく上回る400名以上となりました。

集会では、番組制作に携わる7つの部署の部長が登壇。業務上のヒヤリ・ハットのほか、放送局を取り巻く環境が大きく変わる中、日頃気を付けていることや考えていることについても発表がありました。

会の冒頭、小島社長より、「11年前の今日、東海テレビは重大な放送事故を起こしました。私たちは、そのことを毎年迎える新入社員にも引き継いで行かねばなりません。信用信頼を失うのは一瞬ですが、それを取り戻すには何十年とかかります。その自覚を持って日々業務を遂行してほしい」との話がありました。

問題発生から10年以上が経ち、当時のことを知らない従業員やスタッフも増えています。同じ過ちを2度と繰り返さないためにも、当時の関係者が体験したことや、失われることの大きさを思い返し、継承していくこと。その重要性を再認識し、放送倫理を考える機会を持ち続けていきたいと思います。



放送倫理を考える全社集会の様子

2022年度第1回放送人研修会 「番組制作で気を付けたい人権問題」

番組審議室 堀田 優

2022年11月21日、毎年実施している「放送人研修会」をオンライン形式で開催しました。講師は、BPO放送人権委員会の曾我部真裕委員長と廣田智子委員で、テーマは「番組制作で気を付けたい人権問題」です。本社、東京支社などと講師をオンラインで結び、およそ140人がリアルタイムで参加しました。

曾我部委員長には、「LGBT報道ガイドライン」を題材に、人権意識の高まりと報道のあり方を説明していただきました。この中で重要な点として、マイノリティに対する“無意識の思い込み”があるのではないか、という姿勢を常に持つこと。また、名前や顔出しの有無など相手に重要な点を確認したうえで報道することの大切さを教えていただきました。また、廣田委員には、2022年4月に改正された少年法と実名報道について解説していただきました。お二人の話で印象に残ったのは、人権意識の高まりなどでメディアを取り巻く環境が変わっても、報道の自由、表現の自由の重要性は変わらず、「説明責任」を果たしていくことが大切だということでした。人権意識が高まっているからこそ、ますます重要になってくると改めて認識しました。

放送基準改正説明会

番組審議室 堀田 優

2023年4月1日から日本民間放送連盟の放送基準が改正されたことに伴い、東海テレビの放送基準も改正されました。今回の改正は、社会の変化、特に人権意識の高まりや価値観の多様化に対応することなどが目的で、全体のおよそ3分の1の条文が変わりました。新しい放送基準の施行に先立って、3月にすべての従業員・スタッフを対象にした説明会を対面とオンラインで開催し、改正のポイントや留意点を周知しました。番組やコマーシャルの表現に問題がないかどうか、アップデートされた放送基準を浸透させていくことで、放送倫理意識の向上を図ってきたいと思います。

コンプライアンス責任者会議

東海テレビでは、各部署のライン部長が各部署の業務を管理するとともに、コンプライアンス責任者として、コンプライアンスや放送倫理という視点で部署の監督・指導をする責務を負っています。「コンプライアンス責任者会議」は、全部署のライン部長のほか、グループ会社のコンプライアンス担当者も加え年4回、3カ月ごとに開催し、法令順守や放送倫理、情報セキュリティなどに関わる事項について、話し合いの場を設けています。各部署で発生したトラブルやヒヤリ・ハット事例のほか、「情報セキュリティ対策」、「インボイス制度の留意点」、さらにはBPO事案などについて時間を割いて議論を深めました。番組制作に関わっているか否かにかかわらず、放送に携わる「放送人」としてコンプライアンスを意識しながら業務に当たれるよう、この会議を運用しています。

コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は、社長をはじめ、役員・局長・グループ会社のコンプライアンス担当役員・労働組合代表を構成メンバーとした会議で、半年に1回開催しています。前述の「コンプライアンス責任者会議」で話し合われた内容の共有のほか、会社運営に必要な法令上の議題なども話し合わせ、グループ全体で共有しています。委員会には顧問弁護士も参加しており、この1年では「コロナ禍等における下請法の留意点」や「インボイス制度 免税事業者への留意点」についての解説を受けました。経営層から上級管理職が率先して学び、職制を通じ注意喚起することで、コンプライアンスを意識できる会社を目指しています。



コンプライアンス委員会の様子

第三者機関 オンブズ東海

びーかん問題を契機に、2012年に発足した第三者機関「オンブズ東海」の活動は今年12年目を迎えました。委員として、現在、法律・消費者経済・マスコミの専門家3人に委員を委嘱しており、年4回、3カ月毎に開催している「オンブズ東海委員会」などで、東海テレビの番組やイベントの制作過程などについて、それぞれ専門の立場からチェックし、意見をいただいています。委員からの意見は適宜社内にてフィードバックし、「転ばぬ先の杖」としてしています。委員会の概要は、東海テレビのホームページに公表していますので、是非ご覧ください。

[オンブズ東海委員会HP](http://www.tokai-tv.com/ombudstokai/)

www.tokai-tv.com/ombudstokai/

オンブズ東海委員の皆さん

2023年7月1日現在

橋本 修三 弁護士

東 珠実 椋山女学園大学現代マネジメント学部教授

白田 信行 (株)中日新聞社常務取締役

その他の主な取り組み

▶2022年

8月26日(金)

マネジメント研修(役員・局長)

8月29日(月)～9月7日(水)

社有PC無線LAN運用基本ルール説明会

9月9日(金)～12月21日(水)

個人情報保護・情報セキュリティに関する
内部監査

11月17日(木)～2月27日(月)

業務リスク調査

12月2日(金)、16日(金)

マネジメント研修(統括・部長)

▶2023年

2月17日(金)、20日(月)

改正個人情報保護法説明会

3月10日(金)～3月15日(水)

改正放送基準説明会

4月3日(月)

グループ会社新入社員研修

東日本大震災から12年が経った今なお、険しい復興への道のりを歩み続ける被災地。東海テレビは放送を通じて「伝えること」はもちろん、イベントなどを通じ、引き続き被災地の皆さんに寄り添い、復興のお手伝いをしていきたいと考えています。

岩手県への訪問 ～使命の重さを胸に～

社長室 田中 達也

2022年10月。澄み切った秋の空が広がる、さわやかな日に、小島社長とともに岩手県を訪問しました。社長の岩手県訪問は、不適切テロップ問題以降、新型コロナウイルスの影響で見送った2020年を除いて、毎年続けています。

訪問したのは、岩手県庁、JA岩手県中央会、JA全農いわての皆様。小島社長はこの席で、一年の取り組みをまとめた冊子を元に、番組やイベントを通して岩手県の情報を紹介していることや、「不適切テロップ問題」が起きた8月4日を放送倫理の日と定め毎年全社集会を行っていることなどを報告しました。いずれの訪問先も、とても温かく迎えていただき、インフラの整備やコメの生育状況など、大震災から11年経った岩手県の現状を説明してくださいました。そして、東海テレビが毎年、報告を続けていることに御礼の言葉をいただいた上で、「マスコミの影響力は大きい。これからも岩手県の現状を発信し続けて欲しい。」と話していただきました。

昔、先輩から「テレビ局の最大の使命は皆が普通の生活を送れるよう手助けすること。ただ影響力があるだけに過ちを犯すと大事になる。」と聞いたことがあります。2011年8月4日、私たちは過ちを犯し、災害で苦しむ被災者にさらに鞭打つ行為を行いました。今回、小島社長の岩手県訪問に同行して、同じ過ちを二度と起こしてはいけないとの強い思いとともに、テレビ局に与えられた使命の重さを、改めて感じました。

この1年でお伝えした 主な被災地支援番組・企画

▶NEWS ONE

7月13日（水）

いわての食の商談会を開催（名古屋東急ホテル）

3月10日（金）

「大谷ジャーナル」で東日本大震災、そして原発事故から12年を迎えた福島取材

3月11日（土）

岩手県大槌町から送られた菜の花の種を育て、大槌町に返す高山市の取り組みを紹介

▶スイッチ！

8月31日（水）

岩手県の観光と物産展を生中継（名鉄百貨店本店）

1月25日（水）

宮城県の観光と物産展を生中継（名鉄百貨店本店）

3月7日（火）

「東日本大震災から12年 福島県の“いま”」を紹介

▶岩手県産の新米を視聴者プレゼント

10月31日（月）～11月4日（金）

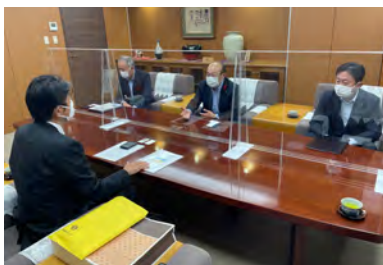
東海テレビ視聴促進キャンペーン「テレビを見るとイイコトあるなキャンペーン」で岩手県産新米「銀河のしずく」5kg30袋を視聴者にプレゼント

▶岩手県産米の社内販売と社員食堂での消費

岩手県産米の社内販売を実施し、5kg入り3,000円を194袋販売。また、2022年4月から2023年3月に、社内食堂で岩手県産米「銀河のしずく」3,045kgを消費

▶ふるさとイチバン イッチー祭

「ふるさとイチバン イッチー祭2022」で復興支援コーナーとして、岩手、宮城、福島、熊本各県のブースを設け、特産品の販売と観光PRを実施



岩手県 菊池 哲 副知事らと



JA岩手県中央会 後藤 元夫 副会長らと



JA全農いわて 高橋 司 県本部長らと

東海テレビは、ニュース、情報番組、ドラマ、ドキュメンタリーなど、様々な番組を通じて地域の皆さまに情報をお届けしています。また、有事の際の情報ライフラインとしての役割も担っています。放送事業以外にも、イベントや社会貢献活動、4年目を迎えた動画・情報配信サービス「Locipo」など、様々な活動通じた地域貢献活動をご紹介します。

ウクライナ侵攻から1年 伝え続ける 避難民の「苦悩」と「怒り」

報道部 後藤 慎介

ロシアがウクライナ侵攻を始めて、2月で丸1年。「NEWS ONE」では、侵攻当初から、この地方へ避難したウクライナ人を何組も取材しました。知らない土地、知らない言語を使っている生活が、どれだけ心細いものか想像に難しく、多くの人が国に家族を残して避難しています。

去年4月から取材を続けた、各務原市のナタリヤさんもその一人。11歳と3歳の幼い娘と来日するも、今もご主人はウクライナから出国できずにいます。当初は全く意思の疎通を図ることもできませんでしたが、1年を経て、理解できる日本語が増え、買い物も自分たちだけで行えるように。娘たちも慣れない日本食が大好きになり、学校でも多くの友達ができました。表情も明るくなり、懸命に生きる姿を見せる一方、彼女たちの怒りや無念は何も変わることはありませんでした。

「ロシアが許せない」、「平和だった国に戻ってほしい」、「パパに会いたい」。

平和な日常が一変し、未来を奪われたウクライナの人々。この悲しい現実、決して日本にとっても対岸の火事ではありません。軍事侵攻がどれだけ愚かな手段か、テレビ局の使命として今後も伝え続けなければいけないと思っています。彼女たちの闘いは、今も続いているのだから。



ナタリヤさん家族

ドラマの地域貢献について 土ドラ「最高のオバハン中島ハルコ」

東京制作部 松本 圭右

2021年と2022年の2回にわたり愛知・岐阜で撮影を行った土ドラ「最高のオバハン 中島ハルコ」。愛知では主に幸田町、蒲郡市、名古屋市をメインロケ地に、岐阜では岐阜市、関市、下呂市、飛騨市と複数の自治体の力をお借りして撮影を進めました。

地方ロケでは撮影場所の選定やエキストラの手配などを中心に様々なかたちで自治体からのご協力を得ています。一方、番組側からの地域貢献としては、撮影時にスタッフの宿泊、食事などを地元で発注することで物理的に地域経済に還元できることがあげられます。また岐阜市や愛知県幸田町では100人以上の方がエキストラとして参加するイベントシーンのロケも敢行しました。その日は、市や町全体が盛り上がり、結果的に経済効果にも良い影響を及ぼしたとも聞いています。幸田町では、そうしたロケ協力を通じ、近隣の蒲郡市とも親交を深めることができ、その後、二つの地域が一丸となってロケ誘致を進めるなどの新たな展開も生まれているそうです。地元と連携した地域密着型のドラマの制作は、単なるPRに留まらず、その地域の勢いを作ることもでき、今後も進める意義のあるものだと考えています。



主演の大地真央さん（中央左）と松本まりかさん（中央右）

ジブリがパーク建設に込めた“想い”とは… 「おんこちしん ようこそジブリパーク」

報道部 近藤 雅大

昨年11月に愛・地球博記念公園内にオープンした「ジブリパーク」。その開園の舞台裏に密着した特別番組「おんこちしん ようこそジブリパーク」を制作、昨年11月に放送しました。

ジブリパークの施設の多くはもともと公園内にあった建物をリノベーションして作られました。例えばメインエリアのジブリの大倉庫は温水プールとして使われていた建物を活用しています。総指揮を務めた宮崎吾朗監督はパーク建設に込めた思いについて、「古いものを生かすことで、いつまでも“古びない”こと」、「地域の人たちに脈々と伝わってきた“記憶”を大切にすること」と答えました。これはまさにスタジオジブリが映画を通じて、私たちに長年問い続けてきた「温故知新」、「不易流行」というメッセージそのものでした。

また建設に携わった多くの職人も取材しました。3代続く大工の棟梁・中村武司さんは、愛知や岐阜の木材を使い、日本家屋の伝統的な工法で映画に登場した建築物を再現しました。ジブリの大倉庫を彩るタイルは、タイル職人が瀬戸の窯元などで焼き上げ、1枚1枚手作業で張り付けました。

地域への愛、伝統や自然を大事にする心、そうしたジブリパークに込められた思いを取材し、番組を通じて伝えられたことは貴重な経験となりました。



(上) ジブリパークを手掛けた宮崎吾朗監督 (下) 大工の棟梁が作った「どんどこ堂」

見たい！と思うコンテンツをスマホでも 地域に愛される 配信サービスを目指して

コンテンツ事業部 石原 正通

在名民放局が共同運営する動画・情報配信サービス「Locipo（ロキポ）」はサービス開始から3年が経ちました。地域の皆様により多く使ってもらえるように、昨年10月にはアプリをリニューアル。利用者ごとにおすすめ番組が表示されるレコメンド機能が搭載されました。番組では、「タイチサン!」「土ドラ」の見逃し配信が始まり、4局の自社制作番組のほぼすべてが視聴できるようになりました。

また、地元スポーツで新たな試みを実施。「春の高校バレー愛知県大会」では地上波で放送されない男女1回戦から準決勝までの全60試合をVOD配信、「愛知駅伝」では全中継所の模様をライブ配信し、多くの参加ランナーを紹介しました。さらにプロ野球では「ドラゴンズ春季キャンプ」の模様を毎日配信し、ファンに選手の躍動をお届けするなど、地域の皆様に「見たい!」と思ってもらえる配信オリジナルコンテンツを制作しました。

このような取組の結果、今年2月には初の100万MAU（月に利用したユーザー数）を達成。今後は自治体との連携も積極的に進めるなど、地上波と共に地域に愛される配信サービスの拡充を図ってまいります。



リニューアルしたLocipoインターフェイス（イメージ）

テレビアホール、 アニメ展覧会ホールとして再始動

事業部 竹中 麻紀

2022年7月、東海テレビ本社隣のテレビアホールがアニメコンテンツ専用展示ホールとして生まれ変わりました。当施設は1988年、多目的ホールとしてオープン。展覧会や演劇、落語、音楽イベントなど自社催事を中心に開催してきました。

昨今、日本の「マンガ」「アニメ」は国内外から高い評価を受け、今や日本を代表するカルチャーとなりました。人気の上昇に伴い様々な企画展が増えましたが、東海地区にはそれらの展覧会に相応しい会場が少なく、開催は首都圏や関西地区に集中していました。その状況を打破し、東海地区にもアニメ文化発信の拠点を作ろうというのが今回のリニューアルのコンセプトでした。

リニューアルオープン第1弾は「ご注文はうさぎですか？展」。原画や登場人物の等身大フィギュア、衣装など200点以上が展示され、また関連グッズも充実の品ぞろえで多くのお客様に喜んでいただきました。他にも「大ベルセルク展」「To LOVEる展」など初年度は10の展覧会を開催しました。

今後も東海地区初の専用ホールとして定着し、またインバウンドのお客様にもお越しいただけるような「アニメの聖地」として広く認知されることを目指してまいります。



ご注文はうさぎですか？展の様子

今、助けを必要としている人に ダイレクトに届く支援を！

社会福祉法人 東海テレビ福祉文化事業団 植木 圭一

「社会福祉法人 東海テレビ福祉文化事業団」は1979年に設立され、東海地方の障がい者やお年寄り、子どもたちの福祉の向上に貢献してきました。年間を通じて「愛の鈴 しあわせキャンペーン」として募金活動を実施するほか、東海3県の障がい者福祉団体に対する軽自動車「愛の鈴号」の寄贈や、身体機能のハンディを克服し社会的に自立・活躍している地域在住の方々に「東海テレビひまわり賞」を設け顕彰しています。「愛の鈴号」寄贈と「ひまわり賞」顕彰は、昨年度でそれぞれ42回目、41回目を迎え、東海地方の主要福祉イベントとして認知いただいております。

また、昨年度の支援活動ですが、これまでの新型コロナウイルス対策中心から、テーマを“食の支援”にシフトし、東海3県の子ども食堂に支援金を寄託しました。また、もう一つの柱としての災害援護事業では、今年2月にトルコ南部で起きた大地震の義援金を募り、610万円余りのご支援をいただきました。これからもニュースや番組、告知CMなども積極的に利用し、今助けを必要としている人たちにダイレクトに届く支援を行えるよう、より一層の情熱を傾けて活動してまいります。



(上)「ひまわり賞」顕彰の様子 (下) 愛の鈴号

2020年から猛威を奮った新型コロナウイルス。「三密の回避」など、人が集まることに様々な制約がかかったこともあり、大きな打撃を受けたのが各種イベントでした。しかし、終息への光が見え始める中、様々な形でイベントが再開しつつあります。ここではコロナに配慮しつつも復活したイベントへの様々な思いをご紹介します。

3年ぶりの有観客開催 東海クラシックゴルフ

東海クラシック事務局 太田 貴久

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催中止もしくは無観客開催になり、プロが放つショット音だけが響き、バーディを決めても拍手や歓声のない静かな大会になった2020年と21年。選手からも「寂しいです」という声が聞こえてきました。

コロナ禍で迎えた2022年大会は、関係者全員が抗原検査を行い、ギャラリーにも手指消毒やマスク着用、声出し応援の自粛をお願いするなど、安心安全にこだわる運営をすることで3年ぶりにギャラリーを入れて開催することができました。次々にニューヒロインが生まれる女子ゴルフ界、迫力あるドライバーショットを見せる男子プロ。両大会とも、緊張感がみなぎる中で見せるスーパーショットに、ギャラリーの笑顔があふれる盛り上がりを見せました。いいプレーをする選手たちへの惜しめない拍手に包まれる会場。これこそが「スポーツの魅力」だと主催者だけでなく選手も改めて感じる事ができ、ファンのありがたさを再認識しました。選手だけでなく来場者からも「有観客で開催をしてくれてありがとう」の言葉を聞くことができ、関係者一同、来年はさらに良い大会にしようと思えることができました。



ギャラリーを迎え行われた大会の様子

東海クラシックゴルフ

第53回 住友生命Vitalityレディス 東海クラシック
2022年9月16日（金）～18日（日）
新南愛知カントリークラブ美浜コース（愛知県美浜町）
第52回 バンテリン東海クラシック
2022年9月29日（木）～10月2日（日）
三好カントリー倶楽部 西コース（愛知県みよし市）

コロナ時代のイッチー祭

～復活開催「バージョンアップ」への試み～

営業推進部 奥村 信利

会場を埋め尽くす来場者＝イベントの成功。この方程式はコロナ時代に崩れました。密集NG・密接NG…どうやってイベントやるの!? という難題を抱えたまま、3年ぶりのリアル開催が決まりました。「感染症対策」が主題のイッチー祭はもちろん史上初。安全や衛生に敏感になった世相に寄り添うべく、ゼロベースで検討し直す必要がありました。消毒・検温はもちろん、第一に据えたのが「人を流す」こと。

- ①ステージ周辺に導線路を設け、立ち止まれない会場デザインに。
- ②会場両端に通行専用路を設置し往来可能に。
- ③ブースに間隔をつくり、通り抜けができるように。
- ④ピーク時間帯は入り口の一部を閉鎖し一方通行に。…など、密集を回避し、感染拡大防止・事故ゼロを目指しました。実際に機能するか当日まで不安でしたが、大きな混乱もなく、一定の成果を挙げられたと考えています。飲み歩き・食べ歩きを禁止したことで、ごみのポイ捨てが減るといった副産物もありました。難しい課題を抱えながらの運営でしたが、今後に活かせる発見も多く、より安全にバージョンアップしたイッチー祭が、今後も東海テレビファンを増やす場になると確信しています。



開催当日の様子

栄でキャンプ!

東海テレビふるさとイチバン イッチー祭 2022

2022年10月22日（土）、23日（日）
久屋大通公園 エンゼル広場、
エディオン久屋広場（名古屋市中区）

コロナ禍での クリスマスマーケット開催！

事業部 北野 環

3年ぶりの開催となった「名古屋クリスマスマーケット」。コロナ禍での開催ということでアルコール消毒液を各テーブルに設置、飲食時以外のマスク着用をお願いをするなどの感染対策の実施を決定。果たしてお客様が来てくれるのか、楽しんでくれるのか、準備段階から不安でいっぱいでした。

まだまだコロナの影響が色濃い中、来てくれるお客様に満足していただけるよう運営も試行錯誤しました。2日前から行った会場の装飾では、写真映えスポットを例年よりも多く作りました。また、今回初の試みとして、名古屋クリスマスマーケットオリジナルマグカップの制作・販売も行いました。今年からの試みを増やし迎えた初日。オープンとともにお客様が入ってきてくれたことに安堵しました。初日以降も多くのお客様に足を運んでいただき、お客様の笑顔を見るたびに開催出来て良かったという気持ちになりました。日に日に来場者は増え、凍つく寒さの会場も、イベントを楽しむお客様の熱気で包まれました。会場で「楽しかった。ありがとう。」という声をいただいたことは何よりも嬉しかったです。2023年は、更に楽しんでいただけたものにできたらと思っています。



開催当日の様子

名古屋クリスマスマーケット

2022年12月9日（金）～12月25日（日）
久屋大通公園 エディオン久屋広場（名古屋市中区）

3年ぶり開催 愛知駅伝

～あなたはいつふるさとを思い出しますか～

スポーツ部 神谷 英政

愛知県内54の市町村の代表が集い、駅伝ナンバーワンを競う「愛知駅伝」。今年1月、愛・地球博記念公園で3年ぶりに開催され、コロナの影響で止まっていた“絆”のリレーが再び動き出しました。

今回の事前取材では多くの市町村にお邪魔し、毎朝、三河湾に浮かぶ佐久島にフェリーで通う学校の先生やお小遣い2500円で頑張る新米パパなど、それぞれの走る想いをうかがってきました。そして、取材を進める中で各市町村の特色を知り、“ふるさと”の魅力を再確認する貴重な機会となりました。選手たちが語ってくれる地元の話聞きながら、ふと自分の地元はどこなところだったか、どんな風に過ごしてきたのか、昔の自分に思いを馳せていました。

大会当日は生憎の雨でしたが、大会を待ち望んでいた選手たちの顔からは笑顔が溢れ、選手同士が再会を喜ぶ姿もありました。

市町村の代表として、小学生から大人まで世代を越えて絆を繋いでいくのが愛知駅伝最大の魅力。全力で駆け抜けていく小学生や必死の形相で絆を繋ぐおじさんの姿に会場は大きな歓声に包まれていました。そして、2006年から始まったこの大会が地域に根付き、コロナ禍で希薄になってしまった“人とのつながり”を取り戻す一助になれたのではないかと実感しました。



（上）各チームの意気込み （下）スタートの様子

第15回愛知県市町村対抗駅伝競走大会（愛知駅伝）

2023年1月14日（土）
愛・地球博記念公園（愛知県長久手市）

東海テレビには、視聴者の皆さまをはじめ、社外から様々な意見が寄せられます。そのどれもが、より良い番組を作るために大変参考になります。今後ともより良質な番組をお届けできるよう努めて参ります。

東海テレビ放送番組審議会

東海テレビ放送番組審議会は、番組をはじめ放送全般についての客観的なご意見をいただく、法律に基づいた第三者機関です。東海テレビでは8月を除く毎月1回開かれ、番組など放送に関するご意見をいただいています。審議委員は10名で、経済、学術、法曹、文化など様々な分野の方々に委嘱しています。新型コロナウイルス感染防止のため、今年も出席者の距離を確保し、換気の時間を設けるなどの感染対策を行い、すべて対面で開催しました。審議会では委員から審議番組に対するご意見をいただき、当社の担当者をご質問などにお答えしました。

今後も幅広い番組をタイムリーに取り上げて委員の方々から多角的な意見をうかがい、番組作りに生かすことで、より一層信頼されるテレビ局となるよう努めてまいります。



番組審議会の様子

東海テレビ放送番組審議会 委員の皆さん

2023年7月1日現在 (50音順)

石川 仁志 委員	(株)名鉄百貨店代表取締役社長
岡田 さや加 委員	柳ヶ瀬を楽しいまちにする(株)代表取締役社長
桂 文我 委員	作家
後藤 ひとみ 副委員長	愛知教育大学名誉教授
鈴木 孝昌 委員	(株)中日新聞社取締役
武田 健太郎 委員	東海旅客鉄道(株)代表取締役副社長
竹松 千華 委員	(有)IDF代表取締役
福谷 朋子 委員	弁護士
水谷 仁 委員	中部電力(株)代表取締役副社長執行役員
山岡 耕春 委員長	名古屋大学教授

視聴者対応窓口

ニュース、情報、バラエティー、ドラマ、スポーツなど様々な番組に対する視聴者の皆様のご意見は、「視聴者対応窓口」に電話、メール、文書などでいただいています。2022年度に寄せられたメッセージは約1万6,900件で、番組内容の問い合わせや意見、番組の放送要望などが届きました。寄せられたご意見やメッセージは、番組制作担当者、編成担当者などにフィードバックし、今後の番組制作、番組編成の参考にさせていただきます。

「視聴者対応窓口」では、皆様のご意見やご批判を真摯にお伺いし、社内に伝えることで、より良い番組作りに役立ててまいります。

視聴者対応番組「メッセージ1」

視聴者の皆様からいただいた問い合わせ・ご意見・ご要望などは、毎月第4日曜日午前5時15分から放送している「メッセージ1」で一部を紹介しています。番組では、番組審議会の概要、CSR活動、BPO事例など様々な内容を報告し、東海テレビと視聴者の皆様との双方向のコミュニケーションを図る役割を担っています。

社外モニター

東海テレビの社外モニターは、毎年度上期と下期、それぞれ10名の視聴者の方々にお願いしています。1カ月4～5本の自社制作番組をご覧いただき、率直な意見をいただいています。2022年度は51番組について様々なご意見をいただきました。住所、年齢、性別、職業など様々なプロフィールの方から多様なご意見をいただき、番組作りの課題や番組編成のヒントなどを頂戴する貴重な機会となっています。

「倫理の維持・向上が、放送を守る」

上智大学文学部新聞学科教授 音好宏

動画配信サービスの普及など、ネット系メディアが伸張するなか、若者を中心に「テレビ離れ」の加速が指摘されている。広告収入を主たる財源としてきた民間放送にとって、視聴者数の減少は、経営の屋台骨を揺るがしかねない事態であり、既存の放送事業者も、ネット展開に活路を探る動きはあるものの、TVerの利用状況に象徴されるように、アクセスされるコンテンツの多くは、在京民放キー局が制作に関わったものということもあって、ネット系メディアの伸張は、既存放送局のなかでも、特にローカル民放局の経営環境の悪化をもたらしつつあるとの声は多い。そのような状況もあって、放送行政を所管する総務省は、その制度的な対応を検討すべく、2021年秋に「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」を設けて、そのありようについて議論している。特に、ローカル民放局のネット展開などについては、昨年12月に同検討会の下に「放送コンテンツの制作・流通に関するワーキンググループ」（以下WG）を設置し、検討が続けられており、私も参加させていただいている。

このWGでしばしば問われたのが、そもそも放送事業は制度的に保護されるべき対象なのかという問いである。放送事業者、特にローカル放送局が制作した放送コンテンツがネット空間に提供されても、多くの動画コンテンツのなかで埋没してしまうことが指摘されている。ネット空間へのコンテンツ流通に関しては、提供者と利用者との自由な需給関係が成立しており、放送事業者が自らの意志でコンテンツ提供を行うのであるから、彼らを優遇する必要はないとの声がある一方で、放送

事業者が提供するコンテンツは、自らが定めた放送基準等による質的担保がなされているとともに、災害時などの緊急時への対応についても、採算性を度外視しても安心・安全情報の提供を行ってきた実績がある。

WGでは、英国で導入されているテレビ・セレクションサービスにおけるプロミネンス制度も議論されている。プロミネンス制度とは、言わば、電子番組表（EPG）上において、特定の事業者を優先表示する制度である。つまり、ネット上での動画配信サービスの急速な普及を踏まえ、「バランスが取れた多様な番組を提供し、幅広く国民の異なるニーズや関心に応える」という公共的な放送サービスの役割を、ネット上でも維持してもらうことを目的とした制度である。

日本社会にこの制度が馴染むものなのかは、まだ議論が始まったばかりなので、何とも言えないが、既存の放送事業者の持つ公共性・公益性と高い倫理性などが、社会に広く評価され、受け入れられてこそ、成り立つ制度と言える。

他方において、いま、メディア倫理に対する風当たりが強まっている。今年3月、英国BBCが放映した「プレデター 〜」ポップの捕食者」をきっかけに、故・ジャニー喜多川氏の性加害問題がクローズアップされた。4月には、ジャニー喜多川氏から直接被害を受けたとする元ジャニーズ事務所所属の男性が、外国特派員協会で会見を開き、その被害を告白した。ジャニー喜多川氏の性加害については、1990年代末に『週刊文春』がキャンペーン報道を展開。記事の内容を巡り、ジャニーズ事務所などが発行元の文芸春秋を訴えた

第三者意見 II

が、2003年の高裁で「セクハラ」があったとする記述を真実と認める判決が出され、翌04年には最高裁でこの判決が確定した。しかし、この判決を短く報じた新聞が一部あったものの、放送界で取り上げたところは、ほぼ皆無だった。今回、BBCのドキュメンタリーが放映され、被害者が実名で告白したことを受け、国内の新聞社・放送局は、手のひらを返したように、ジャーニー喜多川氏の性加害問題を一斉に報じ始めた。その横並びの風景は異様でもあるし、また、メディア組織の自立した倫理感の欠如を指摘する国内外の識者も少なくない。もちろん、報じられなかったことと判決確定後も性加害が続いたことは、無縁では無かろう。それは、メディアの倫理性、当事者性に突きつけられた重い問いでもある。メディアの倫理観は、不断の努力によって維持、向上していくものである。その不断の努力を怠れば、自主・自律の箍は外れ、読者・視聴者からの信頼を失ってしまう。英国のプロミネンス制度が、読者・視聴者の信頼を勝ち得ているメディアゆえに適用されるのであれば、より一層、その努力が問われることになる。

東海テレビは、2011年の不適切テロップ事件以来、継続的にコンプライアンス強化を進め、放送倫理研修や全社集会を継続的に開催

してきた。また、外部有識者による検証組織「オンブズ東海」を定期的に開催。現場の生の声を大切にされた組織改革に取り組んできた。この不断の努力こそが、組織の放送倫理を見直し、再強化することにつながるのだが、先に見たように、放送事業者を取り巻くメディア環境の変化は、その感度をより一層高めることを求めているとも言える。そのことからすると、東海テレビは12年に渡って、その努力を継続してきた歴史がある。メディア環境が大きく変化するいまだからこそ、これまでの努力を再確認しつつも、心を新たに、倫理性の維持向上を図っていただきたい。



音好宏 (おとよしひろ) 氏

上智大学文学部新聞学科教授。

1961年札幌生まれ。民放連研究所勤務。上智大学新聞学科助教授、コロンビア大学客員研究員などを経て、2007年より現職。衆議院総務調査室客員調査員、NPO法人放送批評懇談会理事長などを兼務。専門は、メディア論、情報社会論。著書に『放送メディアの現代的展開』（ニューメディア）、編著に『地域発ドキュメンタリーが社会を変える』（ナカニシヤ出版）などがある。

この1年の取り組み

2022年	7月	放送倫理を考える月間・放送倫理を考える日全社アンケート
	8月4日(木)	放送倫理を考える全社集会 「東海テレビこの1年の取り組み2022」発行・HPに公表 社外アドバイザー報告会
	8月25日(木)	第36回コンプライアンス責任者会議
	8月26日(金)	マネジメント研修(役員・局長対象)
	9月12日(月)	オンブズ東海第43回委員会
	9月15日(木)	2022年日本民間放送連盟賞 【CM部門】テレビCM 最優秀 公共キャンペーン・スポット「生理を、ひめごとにしない。」 【番組部門】テレビドラマ 優秀「土ドラ おいハンサム!!!」 【技術部門】優秀 「1万円台でできるモバイル伝送機器監視装置『パケキャッチュ』の開発」 【技術部門】優秀 「AI文字認識によるリアルタイム配信広告制御～アドオンでADをONできます!～」
	9月22日(木)	第23回コンプライアンス委員会
	10月20日(木)	小島浩資社長 岩手県等訪問
	10月22日(土)	ふるさとイチバン イッチャ祭り
	～23日(日)	
	11月2日(水)	2022 62nd ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS 【フィルム部門A カテゴリー(テレビCM)】ACCシルバー 公共キャンペーン・スポット「生理を、ひめごとにしない。」
	11月15日(火)	第37回コンプライアンス責任者会議
	11月21日(月)	2022年度第1回放送人研修会「番組制作で気を付けたい人権問題」
	11月21日(月)	新型コロナワクチン職域接種(4回目)
	～24日(木)	
	11月26日(土)	和歌山県南方沖を震源とする南海トラフ巨大地震を想定した「名古屋モデル」訓練
	12月 2日(金)	マネジメント研修(統括・部長級対象)
	・16日(金)	
	12月 5日(月)	オンブズ東海第44回委員会
	12月26日(月)	令和4年度文化庁芸術祭 【テレビ・ドキュメンタリー部門】優秀賞 「はだかのER 緊急救急の砦2021-22」
2023年	2月17日(金)	改正個人情報保護法説明会
	・20日(月)	
	2月24日(金)	第38回コンプライアンス責任者会議
	3月10日(金)	改正放送基準説明会
	～15日(火)	
	3月13日(月)	オンブズ東海第45回委員会
	3月23日(木)	2022年度第2回放送人研修会 「私たち東海テレビが実践するSDGs まずは自分たちの身近なところから!」
	3月27日(月)	第24回コンプライアンス委員会
	4月3日(月)	東海テレビプロダクション 新入社員コンプライアンス研修
	4月4日(火)	新入社員コンプライアンス研修
	～5日(水)	
	5月26日(金)	第39回コンプライアンス責任者会議
5月31日(水)	第60回ギャラクシー賞 【CM部門】選奨 公共キャンペーン・スポット「生理を、ひめごとにしない。」 【テレビ部門】激励賞「半世紀ロック」	
6月12日(月)	オンブズ東海第46回委員会	

おわりに

今年も本報告書をご覧いただきありがとうございました。
今回の報告書の表紙は、東海テレビの正面玄関に置かれたオブジェから着想を得て作成しました。
65の数字を形作る花々は東海テレビの従業員をイメージし、個々のもつ多様な個性がカラフルに花開き、節目の年を迎えることができたという思いを表しています。
また、イッチーを取り囲む緑、空、大地にはSDGsの根幹にある「環境を守ること」を重ねています。
豊かな自然に感謝しつつ、スモールアクションを積み重ねることで地域の環境に貢献していきたい、そんな私たちの決意が込められています。
私たち東海テレビはこれからも放送や配信、イベントなどを通じ、地域の皆様の生活をより豊かにするお手伝いができるよう努めてまいります。
引き続き、よろしくお願いたします。

東海テレビ
この1年の取り組み2023

制作・編集

東海テレビ放送コンプライアンス推進局
〒461-8501 愛知県名古屋市東区東桜一丁目14番27号
Tel. 052-951-2511 (代表) <https://www.tokai-tv.com>

**表紙・裏表紙
デザイン**

制作局美術部 水野 亮
発行年月 2023年8月
※文中の所属・肩書については原稿作成時点のものとなっています。



東海テレビ放送